



女子サッカー一部報告

Impressive TOIN

2007年8月4日 No. 3

Impressive TOIN

平成 19 年度第 16 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

全国初出場で 2 勝

決勝トーナメント進出ならず。11 位で大会を終える。

平成 19 年度第 16 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会は 7 月 30 日から静岡県磐田市で行われ、初出場を果たした大阪桐蔭高校は 1 次ラウンドで 2 勝 1 敗の 2 位となり目標としていた決勝ラウンドに進出することができなかった。

大会は全国の地域代表 24 チームが集まり 4 チームごとの 6 グループにわかれて 1 次ラウンドを行い、各グループの 1 位と 2 位の中から成績のよい 2 チームの合計 8 チームによる決勝ラウンドが行われた。

大阪桐蔭は 1 次ラウンド第 1 戦で埼玉栄高校と対戦した。初めての対戦とあって静かな立ち上がりとなったが 6 分佐々木のパスから柴田が抜け出し先制点をあげた。しかし 1 分後には不用意なファールから FK を直接決められ同点にされた。後半に入り積極的に攻めに出た大阪桐蔭だったがなかなか得点を挙げる事ができない。埼玉栄の弱いサイドを攻めるためにサイドハーフとディフェンスに変化を与えてポジションを変えたところチャンスが生まれ佐藤の得点で再びリード。さらに 22 分佐藤が追加点を上げ初戦を勝利で飾った。

第 2 戦は優勝候補の鳳凰高校(鹿児島)との対戦となった。前日鳳凰の試合を偵察し守備的な作戦で挑んだ。しかし鳳凰の勢いが予想以上にあり開始から圧倒された。4 分に早くもスピードのある攻撃を止められず失点、さらに 14 分にも右サイドを突破され 2 点目を献上した。これで気落ちした大阪桐蔭はミスが原因で 2 点をさらに失い試合は決まった。後半も早い時間帯で 2



桐陽戦。(磐田市役所 HP より抜粋)

失点し 0-6 の大敗となった。大阪桐蔭のシュートはわずか 2 本。鳳凰はスピードと運動量が豊富で左サイドの攻撃が際立っていた。まさに全国レベルの洗礼を受けた格好になった。

決勝ラウンドに進出するためにはグループラウンドで 2 位に入らないといけない。さらに他のグループの 2 位チームより成績を上回らなくてはならない。このためには第 3 戦の桐陽高校には勝利はもちろん少なくとも 6 点差以上で勝たなければならなかった。このため開始から相手コートでプレッシャーをかけ攻撃的に行った。ところがこの作戦が裏目に出た。前半 10 分攻撃が上がったところを逆にカウンターをくらいい先制点を許してしまった。今までの大阪桐蔭はここで意気消沈してしまう

がこの試合は違った。3 分後には柴田のシュートがバーをたたいたところを佐藤が詰めすぐ同点に追いつく。15 分には佐藤から柴田にパスが通りシュートを決めリードを奪った。ところが 25 分に FK から失点し追いつかれてしまった。引き分けも許されないため、後半も攻撃的にするため 4-3-3 にシステム変更した。これが相手守備の混乱を誘い左 CK を得る。これを柴田が豪快にヘディングで決めリード。さらに 1 分後田中由女が 30m 以上のロングシュートを見事に決め試合を決めた。

この結果グループ 2 位は確保したが他グループ 2 位チームの成績が上回り残念ながら 8 位以内にはいることができず決勝トーナメント進出は逃した。2 勝できたことは大いに自信となるが、優勝を狙うためにはまだレベル差が大きく開いている。1 年間また鍛えて来年は優勝したい。

◇1 次ラウンド第 1 戦(7 月 29 日、ゆめりあ多目的グラウンド)

大阪桐蔭高校 3-1 埼玉栄高校(埼玉)

【得点者】柴田、佐藤 2

【得失点】5 分柴田(アシスト佐々木)、7 分失点(直接 FK)、55 分佐藤(アシスト柴田)、57 分佐藤(アシスト村川)

◇1 次ラウンド第 2 戦(7 月 30 日、ゆめりあ多目的グラウンド)

大阪桐蔭高校 0-6 鳳凰高校(鹿児島)

【得失点】4 分、14 分、25 分、25 分、41 分、45 分失点

◇1 次ラウンド第 3 戦(8 月 1 日、ゆめりあメイングラウンド)

大阪桐蔭高校 4-2 桐陽高校(静岡)

【得点者】佐藤、柴田 2、田中由女

【得失点】7 分失点 10 分佐藤(アシスト柴田)、15 分柴田(アシスト佐藤)、25 分失点、49 分柴田(アシスト村川)、50 分田中由女(アシストなし)



平成 19 年度第 16 回関西高校女子選手権大会兼全日本高校女子サッカー選手権大会関西予選

全国大会出場

準決勝で啓明を 4-0 で破り上位 2 位入賞を確保

平成 19 年度第 16 回関西高校女子選手権大会兼全日本高校女子選手権大会関西予選は 6 月 3 日から行われ、全国大会出場を目指す大阪桐蔭高校女子サッカー部は準決勝で啓明学院を 4-0 で破り上位 2 チームに入り創部 2 年目にして早くも全国大会出場を決めた。

2 回戦(6 月 3 日、日ノ本学園グラウンド) 大阪桐蔭高校 6-0 夢野台高校(兵庫)

【得点者】佐藤 2、齋藤、六車 2、柴田
初戦で硬さが見えた大阪桐蔭だったが 11 分に佐藤が先制点を入れるとやや硬さがとれ前半終了間際の 2 得点で試合を決めた。

3 回戦(6 月 10 日、関西国際大グラウンド)

大阪桐蔭高校 4-0 奈良育英高校

【得点者】六車、柴田、佐藤 2

開始 3 分で六車が先制。10 分にはキャプテン柴田が追加点を上げて優位に進めた。

準決勝(6 月 17 日、淡路佐野運動公園)

大阪桐蔭高校 4-0 啓明学院

【得点者】佐藤、寺本、坂口、六車

この試合に勝たなければ全国大会に出場できない大切なゲーム。これ以上の緊張はないという状況だった。前半は全くだいいプレーができずに終了、後半 7 分に CK から佐藤が頭で押し込み先制。本来のプレーができると思われたが最後まで硬さが残った。それでも結果を残し全国大会出場を決めたことはうれしい限りである。

決勝(6 月 24 日、アスコザパーク)

大阪桐蔭高校 0-6 日ノ本学園

雨の決勝となった。日ノ本のこれまでの試合を見ていると勝機ありと思われたがさすがに何度も全国大会を経験したチームで全く攻撃ができないまま終

えた。ここまで無失点できたが一気に 6 失点を喫した。攻撃の組み立て準備段階でのミスが目立った。それだけ日ノ本のプレッシャーが厳しかったといえるが、1 点目の失点はまさしくハーフウェイライン付近でのパスが繋がらないところをつけこまれ一気にゴール前まで大きく運ばれた。開始 2 分の失点はあらゆるゲームプランの変更を余儀なくされる。さらに 23 分まったく同じようなミスから 2 点目を失った。後半大阪桐蔭が 1 点を返すと試合の流れは変わるが日ノ本の勢いは収まらず 12 分に FK から 3 点目が入り試合を決められてしまった。

新興チームには絶対負けられないというプライドが日ノ本にはあった。雨の試合とはいえ日ノ本の守備はシンプルで全く大阪桐蔭のパスサッカーができなかった。フィジカル的にも圧倒されチャンスは 2 回だけ。6-0 というスコアがそのまま実力差といっているほどねじ伏せられた。

しかしこのような真剣な戦いをしてくれた日ノ本に大いに感謝しなくてはならない。大阪桐蔭のできないことをはっきり示してくれたからだ。全国大会では今の実力では通用しないことを教えてくれた。パスサッカーをめざし中盤でミスがでると失点につながる。攻撃のときも常に危機管理を行わないとボールを奪われた瞬間に失点の恐れがある。全国大会本番までに修正すべき点は多い。

全国大会展望

き点は多い。

第 16 回全日本高校女子選手権大会は各地区予選を勝ち抜いた 24 チームが集まり 7 月 29 日から 8 月 5 日まで静岡県磐田市で行われる。4 チームごと

の 1 次ラウンドがリーグ戦で行われ上位 1 チームと各グループの 2 位から成績のよい 2 チームの 8 チームが決勝トーナメントに進出する。大阪桐蔭は関西第 2 代表として桐陽高等学校(東海第 2 代表/静岡県)、鳳凰高等学校(九州第 2 代表/鹿児島県)、埼玉栄高等学校(関東第 6 代表/埼玉県)と同じグループ B に入った。7 月 29 日に埼玉栄、30 日に鳳凰、休息日をはさんで 8 月 1 日に桐陽と対戦する。グループ 2 位チームにも決勝トーナメント進出のチャンスがあるとはいえ 6 グループの中から 2 チームだけの狭き門だ。実際は 1 敗もできない。全国大会という特別なステージでどれだけ力を出せるか楽しみである。決勝トーナメント進出を目標とし

練習のテーマ

たい。

6 月

- チーム戦術ボールの動かし方
- 守備ラインのビルドアップ
- 中盤のポゼッション
- 攻撃のモビリティ
- 2 トップを使った攻撃の崩しの改善
- 厳しいプレッシャーの中でのポゼッション
- パス&コントロール
- 持久力、筋力、スピード、アジリティトレーニング
- セットプレー

7 月

- 2 対 1 の守備の改善
- ビデオ分析 ほか

練習試合結果

▼5 月 20 日(日)大阪桐蔭高校グラウンド 1-6 ヴィッセル神戸中学 1 年生(男子)▼5 月 27 日武庫川女子大学グラウンド 1-4 武庫川女子大学▼6 月 30 日(土)大阪桐蔭高校グラウンド 4-4 アギラス▼7 月 7 日(土)大阪桐蔭高校グラウンド 5-1 グリーンウェーブ中学 1 年生(男子)▼7 月 8 日(日)大阪桐蔭高校グラウンド 3-0 ヴィトリア



女子サッカー一部報告

大阪桐蔭女子サッカー部は4月29日から5月13日まで大阪府で行われた平成19年度大阪高校春季サッカー大会(女子の部)に参加し決勝で合

広島市広島中核工業団地で九州、広島など西日本の強豪29チームが集まり開催された。

大阪桐蔭高校は昨年の8位を上回る成績を目標にした。1次リーグは4チームのリーグ戦だがこの順位によって

0-0PK5-4で勝利し5位で終えた。《結果》

1次リーグBグループ

大阪桐蔭高校 1-1福井工業大学附属福井

【得点者】佐々木

大阪桐蔭高校 0-1 鹿児島女子

大阪桐蔭高校 3-1 山陽女子学園

【得点者】六車、浅井、寺本

決勝トーナメント

1回戦

大阪桐蔭高校 4-1 岡山県U-15

【得点者】田中姿帆、齋藤、新町2

準々決勝

大阪桐蔭高校 0-1 広島文教女子大学附属

敗者戦1回戦

大阪桐蔭高校 2-1 鹿児島女子

【得点者】六車、田中姿帆

5位決定戦

大阪桐蔭高校 0-0PK5-4 福井工業大学附属福井

大阪高等学校体育連盟大会

春季大会初優勝

決勝3-1で合同A(東住吉総合、松原、大阪成蹊女子、箕面自由学園、帝塚山学院)チームを破る

同Aチームを破り初優勝を飾った。

4チームの1次リーグでは初戦星翔に苦しんだものの第2戦では茨木西を12-0で撃破、最終戦でも雨のなか堺女子を6-0で圧倒しグループ1位となった。一方合同Aは1次リーグで昨年覇者の大商学園を1-0で破る殊勲の勝利で1位となり決勝に進出した。

決勝では10分に六車が先制、さらに20分にも村川が直接コーナーキックを決め追加点を上げ優位に試合を進めた。後半には右サイドからのフリーキックを寺本が直接蹴りこみ試合を決めた。最後は合同Aのねばりにあい1失点を許したがこのまま終了した。

昨年は初参加のこの大会で大商学園に敗れ準優勝。今年度は見事雪辱を果たした。大阪府の大会では冬の大会に続いて2連覇となった。

《結果》

1次リーグBグループ

大阪桐蔭高校 3-0 星翔学園

【得点者】六車、佐々木、兼松

大阪桐蔭高校 12-0 茨木西

【得点者】六車3、吉田2、田中由女、

西日本女子大会は5位

坂口、佐々木2、古木2、オウンゴール
大阪桐蔭高校 6-0 堺女子

【得点者】村川、新町、田中姿帆 3、西井

決勝

大阪桐蔭高校 3-1 合同A

【得点者】六車、村川、寺本

「第19回西日本高等学校女子サッカー大会」は5月3日から5日まで東

決勝トーナメントの組合せが決まる。ただ4位であっても決勝トーナメント進出が可能のため布陣を試す試合も行った。

1次リーグでは第1戦で福井工業大学附属福井に先制を許す苦しい展開となった。終了間際に佐々木の得点で同点にしたが、内容では攻勢だったので勝たなかった。続く鹿児島女子には前半7分にゴール前の空中戦から失点した。この1点が最後まで尾を引きまさかの敗退を喫した。第3戦は山陽女子学園に勝利したものの1勝1分1敗となりグループ3位となった。上位2チーム以内を目指したがチャンスをものできないことが響いた。

決勝トーナメント1回戦は岡山県女子ユースU-15(岡山の中学生選抜チーム)と対戦した。相手が年下であったため体力で勝る桐蔭が優位に進めた。前半18分に先制したものの、25分には左サイドからのロビングを直接入れられ思わぬ展開となった。後半に入り再び攻めパスのタイミングが徐々によくなった。4分に齋藤がスローインから受けたボールを強引にシュート、これが決まり再びリード。さらに10分、27分に追加点を上げ引き離した。

準々決勝は広島文教女子大附属との対戦。広島文教は攻守にバランスが取れた好チームだった。キックサイズが大きくなかなか攻めることができなかった。前半は何とか0点で押さえたが、後半残り9分で失点し返すことができず敗れた。

敗者戦では再び鹿児島女子と対戦したが今回は2-1で勝利、さらに5位決定戦では福井工業大学附属福井に

練習のテーマ

4月

- 1対1のONに対する守備
- 1対1のONの攻撃
- 1対1のOFFに対する守備
- 1対1のOFFの攻撃
- パス&コントロール
- 感覚調整力(出力調整力、リズム感、バランス力、時空間認知力、コンビネーション、適合と変化など)
- 持久力、スピード向上、ミドルパワー、アジリティトレーニング、筋力
- ビデオ分析
- ステレッチトレーナー研修会(平澤整骨院より派遣講師)

5月

- クロスボールからの守備
- クロスボールの攻撃
- 個人攻撃の原則
- グループによる攻撃の原則
- 中盤のポジション
- GKを含むビルドアップ
- CFを使った攻撃

ほか